

## 人の色彩認識と配色の美しさの関係

田中海羽 (北摂三田高等学校)

### はじめに

私たちは日常生活の中で、服や広告、デザインなど多くの色の組み合わせに触れている。その中で、同じ色でも組み合わせ方によって美しく感じたり、違和感を覚えたりすることまた、それは人によって感じ方が違うことに疑問を持った。色の美しさは感覚的なものだと思われがちだが、明度・彩度・色相といった要素に分けて調べることで、共通する法則性があるのではないかと考え、本研究を行うことにした。

### 方法

- ・本校生徒にアンケート調査
  - ・アンケート結果を数値化し、グラフにまとめる
- 基準色は色コード #E74C3C (色相 5 度、彩度 74%、明度 90%) ●  
どの色とも調和しやすい色を用いる。

アンケート具体例(明度差)



1~7段階で評価

(1:そう感じない7:とてそう感じる)

### 結果と考察

#### <明度差>

- ・明度がほぼ同じ配色、明度差が極端に大きくない配色 ●×●●  
→視覚的なまとまりが生まれやすく、目が疲れにくい、落ち着いて見える 「トーンの調和」
- ・とても暗い色×とても明るい色、白に近い色×黒に近い色 ●×●  
「嫌い」「美しくない」と選ばれる割合が比較的高かった  
→コントラストが強くと刺激が強い、「注意喚起」「警告」の印象に近づく、調和よりも対立が強く感じられる

#### <彩度差>

- ・彩度が「極端でない」でない配色 ●×●●  
彩度が中程度(鮮やかすぎず、くすみすぎでない)  
→刺激が強すぎず目に優しい、日常に見慣れている。色彩理論「中庸の彩度は調和しやすい」と一致
- ・彩度が非常に高い、目立つ色の組み合わせ ●×●  
エネルギー感でいいが少しうるさく感じられる  
→彩度差は「美しさ」だけでなく「好み」に強く影響する

#### <色相差>

- ・色相差が小さい配色 ●×●  
(赤×赤に近い色) (隣り合う色相) →統一感があり違和感が少ない 「類似色の調和」
- ・色相差が中程度の配色 ●×●●  
→印象に残りやすい
- ・はっきり違う色だが対立しすぎない配色 ●×●●  
→単調にならない、デザインとして「面白さ」「個性」を感じやすい
- ・色相差が大きすぎる配色 ●×●  
好き嫌いの評価が分かれた→目立ってインパクトが大きいがるさく落ち着かない印象  
これらより明度が近い配色は統一感や調和が感じられやすく多くの人に好まれる。また、彩度や色相差の大きい配色は評価が分かれやすく個人の好みだけでなく色の違いをどの程度認識できるかといった色彩認識能力が影響していると考えられる。また、色の美しさは感覚的なものだけでなく、一定の法則性と明度・彩度・色相のバランス、人の認識の違いによって総合的に判断される。